

中学生・作文 国土交通事務次官賞

「人とつながることが避難への第一歩」

愛南町立内海中学校 2年 おおまち 大間知 はな 花南

土砂災害。

それは私たちの命を奪う恐ろしい自然災害の一つです。大雨や地震により斜面崩壊、地すべり、土石流などが起こり、命や財産が奪われてしまいます。

2017年7月、九州北部で記録的な大雨が降りました。この九州北部豪雨災害は、山が崩れ人々の生命を奪い、死者は30人を超え、とても恐ろしい災害となりました。

私はこの様子をテレビで何度も見て、さっきまであった橋や家、車などがあつという間になくなり、言葉を失いました。本当に恐ろしいと思いました。

その中で、私が注目した番組があります。災害が起こった時に病気で寝たきりだったお年寄りの命が助かったという内容でした。びっくりしました。みんな避難するのに一生懸命なのに、寝たきりの人がどう逃げるのだろうと不思議でした。助かった理由は、地域の人たちに、病気のことを隠さず、ありのままの姿を見てもらい、話をしていたそうです。そうすることで、みんなが気づき、協力して病院へ運んでもらい、助かることができました。

私はこれまで「自分の命は自分で守る」と考えていました。よく耳にする言葉だし、防災の学習をする時には、自分にできることは何かを考えます。しかし、社会の中では、自分の命を自分で守ることができない人もいます。その人たちはどうするのだろうと思っていました。

しかし、このお年寄りの人がとった行動も自分の身を守る方法だと気づきました。この人は、確かに体は動きません。しかし、自分にできることは何かを考え、知ってもらうことがよいと考えたから行動したのでしょう。結果的に人と人が協力して助け合っている地域になっています。おそらく、この災害が終わった後、この地域の人たちは、このお年寄りの人のように、自分の命を自分で守れない他の人のことを考えていくでしょう。例えば、寝たきりの人はどこに住んでいるかとか歩くことが不自由な人はどこに住んでいるかなど調べていくかもしれません。そうすることで、もっと多くの人の命が助かるようになると思います。そして、調べるには、話をする必要があります。そうすることで、関わりつながっていき、地域の協力する力が大きくなると思います。

私たちの地域では土砂災害による大きな被害を受けたことがありません。土砂災害が起こるときは、三つの特徴があります。一つ目は、前から降って地中にしみこんだ水の量が多いほど、発生数や規模が増すということです。たくさん雨が降ったときは注意が必要だということがわかりました。二つ目は、短時間に集中して降る場合の方が発生しやすく、規模も大きいということです。三つ目は、雨がやんで晴れ上がってから2、3時間後に災害が起こることもあるということです。

私は土砂災害が起こるのは、強い雨が降っているときだけだと思っていたので驚きました。しかし、逆に言えば、全て危険なときは予測がたち、あわてなくてもよいということです。

だからこそ、今のうちに対策をたてておきたいです。例えば、防災グッズを用意したり避難場所を確認したりしておくことが大切だと思います。私は防災グッズを用意していません。しかし、中身の確認はあまりできていません。非常食の賞味期限が切れていないか不足しているものはないか確認しておきたいです。また、避難場所も家族で避難する場合、ばらばらで避難する場合、家で一人にいる場合、学校にいる場合、登下校中の場合などいろいろな状況を想像して話し合いたいと思います。

そして、この内海に住んでいる人が災害にあっても助かるように考えていきたいです。自分には関係ないと他の人を見捨てて、自分たちだけが助かるのはさみしいです。内海にも寝たきりの人、歩くことが不自由な人など避難するのが困難な人はいると思います。しかし、どこにいるかがわかりません。わからなければ助けられません。防災マップをつくらしたり、何かの機会に関わりをもったりし、地域の方とつながっていきたいと思います。

そうして、起こってほしくないけど、土砂災害が起こったときには、みんなで協力しながら避難していきたいです。